

古代の暮らしを支えたサヌカイトの一大産地

鬼の鼻山北麓にある「多久石器原産地遺跡群」では、これまでに旧石器時代～弥生時代の石器が多数出土しています。

豊富に採れるサヌカイトで石器作り体験ができるのも多久ならでは。さらには令和7年に国史跡への指定をめざし、着々と準備中です。

サヌカイトとは

噴火で表出したマグマが急激に固まりできた安山岩の一種。貝殻状に鋭く割れるため、刃物への加工に適した。叩くと高い音が鳴るので「カンカン石」とも呼ばれる。



特集

多久石器原産地遺跡群を構成する遺跡

三年山遺跡

東の原一六三〇番地遺跡

茶園原西畑遺跡

鬼の鼻山遺跡

茶園原遺跡

など

鬼の鼻山北麓一帯に

40か所以上!

産出した石器



また、三年山遺跡・茶園原遺跡での出土品と酷似した石器が周辺の遺跡からも発掘され、石器原産地遺跡群としての特徴を持っていると判明。こうして日本最大規模の多久の遺跡群は「多久石器原産地遺跡群」と名付けられました。



日本最大規模の
石器原産地遺跡群

金属のない時代、石器は人々の生活に欠かせない道具として重宝されました。周囲を山に囲まれた多久市の南方にそびえる鬼の鼻山北麓一帯では、そうした古代人の暮らしが垣間見えるサヌカイト製の石槍を中心とした石器が多数出土しています。

昭和35年、日本考古学協会によって九州初の学術調査が行われた三年山遺跡と茶園原遺跡を皮切りに詳細な分布調査が行われ、なんと40か所以上の石器製作遺跡を確認。さらに昭和53年～54年の茶園原遺跡の発掘調査では、遺物が多く含まれた60cmほどの層が見つかりました。

2800年前～3世紀中頃

弥生時代

1万5000年～2800年前
集中的に石槍を製作

縄文時代

4万年～1万5000年前
人類が日本列島に到達

旧石器時代
(後期)

噴火に伴い溶岩が鬼の鼻山付近から南多久町長尾付近まで河川を伝って流れ込む

800万年前

ナイフなどに使われる石材の採集・採掘が広く行われました

考古学史に残る多久の遺跡

日本考古学協会が旧石器時代の遺跡として九州で最初に学術調査を行った2遺跡をご紹介します! 三年山遺跡は調査後に保存対応をして、現在公園として整備されています。茶園原遺跡は発掘調査も継続中です。



茶園原遺跡



三年山遺跡